

# 事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
32121	ことばのちからイベント事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートB	2
32121	俳句ポスト事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートB	4
32121	文学賞運営事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートB	6
44211	文化振興事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートB	8
44211	松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートA	10
44211	文化スポーツ振興事業補助金	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートA	11
44212	ふるさと館管理運営事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートA	12
44212	市民会館管理運営事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートB	13
44212	市民会館改修事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	シートA	15

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	ことばのちから	連絡先	948-6952			
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	鎌田 めぐみ	主任	清水 敏樹
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	ことばのちから	連絡先	948-6952			
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹	担当者名	主任	清水 敏樹	主事	上田 麻子

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	ことばのちからイベント事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】				笑顔プログラム	112	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する						重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト	
施策	選ばれる都市づくり				市長公約	232	主な取り組み	ことば文化の内外発信	
主な取り組み	「ことば」文化の内外発信						誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります		
取り組みの柱	「ことば」文化の浸透				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。				
総合戦略	5611	基本目標	⑤暮らしと経済を守る(暮らしと経済まちづくり)		取組み	①文化的土壌が豊かな街という強みを生かし、更なる「ことばを大切にすまら松山」の魅力発信に取り組みます。	(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	2:無し	
		政策	⑥ふるさとづくりの推進						
		施策	①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり						
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R元)	1:有り					
根拠法令,条例,個別計画等	松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文化的土壌を生かして、「ことば」をキーワードとした文化事業を展開し、「ことばを大切にすまら松山」を市内外に発信する。								
背景(どのような経緯で開始したか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>21世紀を目前に控えた2000年(平成12年)、新たなまちの活性化を目的として、各分野で活躍する人材を集めた「松山21世紀イベント協議会」を発足させ、21世紀イベント事業をスタートした。</li> <li>同協議会が実施した「ことばのちから2001」が第6回ふるさとイベント大賞(平成14年)を受賞するなど取り組みが評価されたことから、引き続き「ことば」をキーワードとして事業を展開することとなった。</li> <li>「松山市文化・スポーツに関する市民アンケート」やワークショップ等からのご意見をふまえて策定した「松山市文化芸術振興計画」では、俳句を軸としたことば事業を全国や世界へ向けて情報発信することが重要な視点として掲げられていることから、選ばれる都市づくりを行っていくため、本事業を実施する。</li> </ul>								
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばのちから実行委員会へ負担金を支出し、「ことば」を街中に掲示する「街はことばのミュージアム」の実施や「響け!!言葉 第12回「ことばのがっしょう」群読コンクール」を開催。</li> <li>松山を楽しもうキャンペーン実行委員会へ負担金を支出し、「まつやま落語まつり」を開催(市内の小中学校や市有施設での出張落語、松山市民会館大ホールでの全体公演)。</li> <li>NPO法人俳句甲子園実行委員会へ負担金を支出し、第22回俳句甲子園を共催。</li> </ul>								
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合,基準や金額等	「無し」の場合,その理由		俳句甲子園では参加登録費として、地方大会は参加1チームあたり5,000円、全国大会は選手1人あたり15,000円の負担あり。		
始期・終期(年度)	平成	12	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		文化振興費		R元 予算措置時期	当初
				項	目	目	目				
				H30年度		R元年度		R2年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				36,118		39,731		62,876			
決算額(B)(単位:千円)				34,221		37,414		62,876			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			0		5,000		0			
一般財源			34,221		32,414		62,876				
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算				負担金:35,376千円 旅費:770千円 報償費:535千円		負担金:57,976千円 旅費:2,529千円 報償費:1,111千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		1,897		2,317			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>第22回俳句甲子園を共催。</li> <li>「街はことばのミュージアム」と題し、路面電車や空港など街の様々な場所に「ことば」作品を掲出</li> <li>「ことばのちから」の取り組みをPRするため「すごいもの博」へブース出展を行い、チラシやグッズを配布</li> <li>12月2～4日「まつやま落語まつり」を開催。</li> <li>友好交流都市協定を結ぶ台北市内各所に設置した俳都松山俳句ポストの初の開函を記念し、入選者への表彰式を実施したほか、国立台湾大学へ大型の俳都松山俳句ポストを設置</li> </ul>											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		<ul style="list-style-type: none"> <li>開催予定であった第12回群読コンクールは、前年に比べ、参加グループの増加に繋がった(新型コロナウイルス感染症拡大の影響で本大会の開催は中止)。</li> <li>台北市での表彰式の実施や新たな俳句ポストの設置など、俳句を通じた文化交流を深めることができた。</li> <li>まつやま落語まつりの市有施設での出張落語では多くの観覧希望があり、各会場とも満席となった。</li> </ul>						
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		第4回から松山市が共催している「俳句甲子園」の主催団体「NPO法人俳句甲子園実行委員会」が、俳句甲子園を通して、高校生の健全育成やコミュニティ形成、都市ブランドの向上に寄与していることなどの点が評価され、地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰の団体表彰に選出されるなど、本市の魅力を高めている。							
事業の公共性	必要性	2		1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	1		1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催予定であった群読コンクールでは、前年に比べ、参加チームは増加したものの、大学生・専門学校生グループからの応募はなかった。</li> <li>なお、3月に開催を予定していた「響け!!言葉 第12回「ことばのがっしょう」群読コンクール」及び「俳句エッセイ無形文化遺産登録推進事業「バーチャル吟句会ライブ～荒川区、伊賀市、大垣市の巻～」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。</li> <li>今後も、新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施について検討していく必要がある。</li> </ul>											
R2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各イベントの参加者数や来場者数の拡大を図り、松山と多様な形で関わる関係人口を創出・増加させるとともに、「ことばを大切にすまら松山」の魅力市内外に発信し、さらなる「ことばのちから」によるまちづくりを推進する。</li> <li>俳句甲子園未参加県での出張講座を累計10県を目指す。</li> <li>俳句甲子園へ47都道府県からの参加を目指す。</li> </ul>			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)		<ul style="list-style-type: none"> <li>第23回俳句甲子園</li> <li>「だから、ことば大募集」実施</li> <li>「街はことばのミュージアム」を実施</li> <li>まつやま落語まつり開催</li> <li>第13回群読コンクール</li> </ul>			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句甲子園の参加都道府県を増やすため、未参加県を中心に出張講座を開催し、大会への参加を促す。</li> <li>「だから、ことば大募集」で「ことば」の応募数を増やすため広報周知を強化する。</li> <li>「群読コンクール」で大学生・専門学校生グループからの応募を目指し、大学にもご協力いただき、学生に直接周知・説明を行い、大会への参加を促す。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第23回俳句甲子園の地方大会が、大会形式での実施はできないが、審査方法を変更し、投句審査により実施する。</li> </ul>	

<業績の分析>

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

目標達成度	指標名	単位	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	俳句甲子園未参加県での出張講座実施数	都道府県	目標値	10	10	10	10	10	目標値	10
			実績値	9	9	9	9	9	達成年度	R3年度
			% 達成度	90	90	90	90	90		
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標								
	本指標の設定理由	H23年度末に大会未参加であった10県を対象として設定し、当該10県での出張講座実施を目指すため。			最終目標値の設定の考え方		H23年度末に大会未参加であった福井、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、佐賀、長崎、大分、宮崎の10県を対象とし、出張講座の実施により大会参加を促し、全都道府県の参加を目指す。目標値を10県とし、実績値は前年度までに実施した積算値を含む合計県数とする。			
	まつやま落語まつりでの出張落語実施数	箇所	目標値	-	-	14	14	14	目標値	14
			実績値	-	-	14	14	14	達成年度	R3年度
			% 達成度	-	-	100	100	100		
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)								
	本指標の設定理由	市内の児童生徒をはじめ、より多くの市民に鑑賞の場を提供する機会を示す指標として設定。			最終目標値の設定の考え方		1日目・2日目の実施数の上限が6箇所、最終日の実施数の上限が2箇所であり、3日間開催することから14箇所を目標とする。			
		目標値						目標値		
		実績値						達成年度		
	% 達成度									
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由									
成果指標 (3つまで設定可)	俳句甲子園への参加都道府県数	都道府県	目標値	47	47	47	47	47	目標値	47
			実績値	44	45	45	45	45	達成年度	R3年度
			% 達成度	93	95	95	95	95		
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標								
	本指標の設定理由	本市の魅力PRできる大会として、参加都道府県を拡大するため。			最終目標値の設定の考え方		俳句甲子園への47都道府県からの参加を目指す。			
	出張落語を実施した学校への事後アンケートで「満足した」と評価した割合	% 達成度	目標値	-	-	100	100	100	目標値	100
			実績値	-	-	100	100	100	達成年度	R3年度
			% 達成度	-	-	100	100	100		
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)								
	本指標の設定理由	事業受益者(実施校)の満足度合いを示す指標であるため。			最終目標値の設定の考え方		全ての事業受益者(実施校)において満足度の高い事業実施を目指す。			
		目標値						目標値		
		実績値						達成年度		
	% 達成度									
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由									
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句甲子園に参加実績のない佐賀県で出張講座を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。</li> <li>俳句甲子園に参加実績もなく、出張講座も実施実績のない福井県で出張講座実施に向け各所と調整中であり、引き続き、関係各所とコンタクトを取っていく。</li> <li>まつやま落語まつりの事業の実施により、市民が文化芸術に触れ合うことのできる機会につながった。</li> </ul>								
	成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加エントリーに直結しやすい出張講座が実施ができず、過去一度も参加実績がない佐賀県・福井県からの参加には至らなかった。</li> <li>まつやま落語まつりでの出張落語を実施した学校とは事前から協議を重ね、円滑に事業運営することができ、児童生徒、教員からは多数の感謝や再度の開催を望むお声をいただいた。</li> </ul>								
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に参加のなかった青森県、栃木県と、過去一度も参加がなかった鳥取県で派遣事業を実施したことにより、大会参加を得ることができた。</li> <li>そのうち平成30年度に青森県での派遣事業に参加した青森県立弘前高等学校が、令和元年度の第22回大会で、初の全国大会優勝を果たした。</li> <li>鳥取県からは、平成30年度に2校から投句応募があり、令和元年度には1校が地方大会に出場した。</li> </ul>									

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	ことばのちから	連絡先	948-6524		
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主事	浦川 健太	
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	ことばのちから	連絡先	948-6524		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹	担当者名	主任	福島 卓	

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	俳句ポスト事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	選ばれる都市づくり			主な取り組み	-	
主な取り組み	「ことば」文化の内外発信		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります	
取り組みの柱	「ことば」文化の浸透				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。	
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等 松山市文化芸術振興計画

事業の目的(どのような状態にするか)	俳句ポストを通じて「俳都松山」の魅力をPRする。市内に俳句ポストを設置することで、設置地域の市民や松山を訪れた観光客らが俳句に親しみ、俳都松山の魅力を体感してもらう。市外に俳句ポストを設置することで、全国各地で正岡子規や俳都松山の存在をPRする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句ポストは、昭和41年に子規・漱石・極楽生誕百年祭の記念事業の1つとして観光俳句を募集し、好評を得たことから、昭和43年5月に松山城長者ヶ平へ第1号の松山市観光俳句ポストを設置した。</li> <li>・平成30年度に50周年を迎え、俳句ポストの名称を「俳都松山俳句ポスト」に変更した。</li> <li>・「松山市文化・スポーツに関する市民アンケート」やワークショップ等からのご意見をふまえて策定した「松山市文化芸術振興計画」では、俳句を軸としたことば事業を全国や世界へ向けて情報発信することが重要な視点として掲げられていることから、選ばれる都市づくりを行っていくため、本事業を実施する。</li> </ul>					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句ポストへ投句された俳句の選句、入選句集の発行、特選句のポスターを市内電車等へ掲出</li> <li>・手軽に俳句に親しんでもらうため、インターネットサイト「俳句ポスト365」を運用</li> </ul>					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	昭和 41	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		文化振興費		R元 予算措置時期	当初	
				項	目	目	目					
				H30年度		R元年度		R2年度				
現計予算額(A)(単位:千円)						6,282		5,659			10,599	
決算額(B)(単位:千円)						5,737		5,052				
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳、R2→予算内訳			国支出金			0		0			0	
			県支出金			0		0			0	
			市債			0		0				0
			その他			0		0				0
			一般財源			5,737		5,737		5,052		
主な経費(単位:千円) ※R元→決算、R2→予算							委託料:3,485千円 広告料:754千円 報償費:463千円			委託料:8,232千円 広告料:768千円 報償費:581千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等												
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)			545		607				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句ポストの設置、維持管理</li> <li>・俳句用紙の回収、選句</li> <li>・「俳句ポスト365」の運用</li> </ul>											
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点、悪かった点など			俳句ポストとインターネットでの俳句投稿サイト「俳句ポスト365」のいずれも、前年に比べ、投句数が増加している。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		松山の特徴的な文化である俳句の魅力発信し、俳都松山のPRに貢献している。							
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない				
R元年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「俳句ポスト365」について、投稿数の増加に伴い、運用内容の見直しが必要。</li> <li>・俳句ポストは、設置箇所が市内広範囲に渡るため、投句用紙回収から選句、入選句集発行までに時間がかかる。</li> </ul>											
R2年度の目標	俳句ポストとインターネットでの俳句投稿サイト「俳句ポスト365」を活用し、俳都松山の魅力発信と俳句文化の裾野拡大を図る。 俳句ポスト設置数:114箇所 俳句ポストの投句数:9,700句 俳句ポスト365の投句数:178,000句			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句ポストの維持管理</li> <li>・俳句ポストの開閉</li> <li>・入選句集の発行</li> <li>・各種イベント等への俳句ポストの貸出</li> <li>・「俳句ポスト365」の運営</li> </ul>		投句用紙回収に係る所用時間の短縮を図る。「俳句ポスト365」の投稿数増加に対応するため、サイトの再構築を行う。			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	俳句ポストの設置数	箇所	目標値	-	-	111	114	114	目標値	114	
			実績値	109	111	114			達成年度	R3年度	
		%	達成度	-	-	103					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	設置減の要因があるなかで、現状の設置数は維持するため。			
	本指標の設定理由	投句する機会の多さを示すため									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	俳句ポストの投句数	点	目標値	-	-	9,700	9,700	9,700	目標値	9,700	
			実績値	9,907	9,547	11,081			達成年度	R3年度	
		%	達成度	-	-	112					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	現在の俳句ポストの投句数を維持する			
	本指標の設定理由	俳都松山のPR及び俳句へ親しんだ回数を示すため。									
	俳句ポスト365の投句数	点	目標値	-	-	178,000	178,000	178,000	目標値	178,000	
			実績値	127,377	166,324	185,117			達成年度	R3年度	
		%	達成度	-	-	104					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	現在の俳句ポスト365の投句数を維持する			
	本指標の設定理由	俳都松山のPR及び俳句へ親しんだ回数を示すため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	既存の俳句ポストの老朽化が進んでいる箇所は修繕を行い、設置箇所数が減少しないよう努めた。									
	成果指標	俳都松山をPRすることで、俳句に親しむ人が増加し、俳句ポスト及び俳句ポスト365の投句数が増え、目標を達成した									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主事 向井 董
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	主事 浦川 健太

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	文学賞運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト	
施策	選ばれる都市づくり		市長公約	主な取り組み	ことば文化の内外発信	
主な取り組み	「ことば」文化の内外発信			誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります		
取り組みの柱	「ことば」文化の浸透		232	スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。		
総合戦略	5611	基本目標 ⑤暮らしと経済を守る(暮らしと経済まちづくり) 政策 ⑥ふるさとづくりの推進 施策 ①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり	取組み	①文化的土壌が豊かな街という強みを生かし、更なる「ことばを大切にすま松山」の魅力発信に取り組みます。		(総合戦略) 未来プロジェクト、該当有無 2:無し
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R元)	1:有り		
根拠法令,条例,個別計画等	松山市文化芸術振興計画					
事業の目的(どのような状態にするか)	近代俳句の父・正岡子規を生み、明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」に描いたまちという豊かな文化的土壌をいかし、本市の文化的イメージアップと市民文化の向上を図る。					
背景(どのような経緯で開始したか)	平成元(1989)年の市制施行100周年を記念して創設。全国の多くの市が市制100周年を迎える中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けとなった。第16回は5,628点の作品応募があり、「ことばと文学のまち松山」を全国に発信している。					
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	文学賞に関する事業の運営委託料を支出。 平成31年4月23日から令和元年9月30日まで作品を募集し、令和2年2月14日に審査結果発表・表彰式を行った。 ○審査員:田丸雅智、大原さやか、山戸結希 ○アンパサダー:白濱亜嵐 ○賞:大賞1名(賞金500千円)、佳作5名(賞金100千円)					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	一般販売した「坊っちゃん文学賞作品集1988-2017」は、定価2,000円とした。		
始期・終期(年度)	昭和	63	～	令和	4	終期の種別 2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		文化振興費		R元 予算措置時期	当初
				項	目	目	目				
				H30年度		R元年度		R2年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				13,336				14,377		14,415	
決算額(B)(単位:千円)				13,126				13,065			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0				0		0	
	県支出金			0				0		0	
	市債			0				0		0	
	その他			0				70		0	
一般財源			13,126				12,995		14,415		
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						委託料11,880千円 賞金1,000千円				委託料13,233千円 賞金1,000千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		210		1,312			

\*決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	【文学賞の運営】作品募集、ワークショップ、審査、結果発表・表彰式、大賞作品を雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載					
主な取り組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	「ショートショート」の文学賞にリニューアルされ、応募作品数が過去最高の5,628点と大幅に増加した。また、47都道府県に加え海外からも作品が寄せられた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		作品募集活動により、本市の全国周知とイメージアップにつながっている。		
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	「ショートショート」の文学賞にリニューアルしたことで応募作品数が大幅に増加したが、さらなる増加に向けての取り組みが求められる。					
R2年度の目標	前回以上の応募数を目指し、「ことばと文学のまち松山」をPRする。		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)	作品募集、ワークショップ、審査、結果発表・表彰式、大賞作品を雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策	より一層、「ことばと文学のまち松山」の全国発信が行えるよう前年度の取り組みを検証しながら行う。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	書き方ワークショップ開催数	回	目標値	1	-	5	5	5	目標値	5	
			実績値	1	-	5	-	-	達成年度	R4年度	
		%	達成度	100	-	100	-	-	-	-	-
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	他の文学賞と比べても多くの応募を受けており、現状を維持するため。			
	本指標の設定理由	作品の応募につながる取り組みであるため。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	作品の応募数	点	目標値	1,200	-	2,000	5,700	5,700	目標値	5,700	
			実績値	1,941	-	5,628	-	-	達成年度	R4年度	
		%	達成度	162	-	281	-	-	-	-	-
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	他の文学賞と比べても多くの応募を受けており、現状を維持するため。			
	本指標の設定理由	賞の魅力や本市のPR度を測る指標として設定。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
%		達成度									
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	ショートショートを書く方法を学ぶワークショップを開催し、作品制作により気軽に取り組みきっかけになった。									
	成果指標	「ショートショート」の文学賞にリニューアルしたことで、過去最高となる5,628点の作品応募につながった。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」で描いたまちという本市の個性をいかした独自性の高い取り組みとして、効果的に全国PRができています。										

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634			
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	福島 卓	主事	向井 董
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634			
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	主事	浦川 健太		

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	文化振興事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト	
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	こぼ文化の内外発信	
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります	
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳句松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。	
総合戦略	4231	基本目標	①魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化)	取組み	①平成28年度末に策定予定の「(仮称)文化振興計画」に基づき、文化ビジネスの創出など、文化芸術の活用により地域経済活性化につながる取組を検討します。	(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
		政策	②産業の競争力強化(業種別取組)			
		施策	③文化・芸術・スポーツ等の地域資源を活用したビジネス創出			
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R元)	1:有り			2:無し

根拠法令, 条例, 個別計画等	文化芸術基本法、松山市文化芸術振興計画、松山市補助金等交付規則					
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”を目指す。松山市文化芸術振興計画の5つの目標「文化芸術に接する機会を増やす」「多様な人々が文化芸術を創造する」「俳句やこぼを軸とした松山の個性を伸ばす」「文化芸術の創造性を様々な分野に活かす」「文化創造に関わる人を増やす」					
背景(どのような経緯で開始したか)	文化芸術振興計画策定時の調査で、文化芸術活動を重視する方が約9割を占めており、経済的な発展とともに、心豊かな社会を形成するため、文化芸術がその役割を果たせるよう事業を行っている。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	松山市文化協会等に対して補助金を支出。 松山市文化創造支援協議会、愛媛国際映画祭実行委員会に対して負担金を支出。 市民が文化芸術に接する機会を充実するため、松山ブンカ・ラボで、市民参加型のイベントやシンポジウム、また、愛媛国際映画祭を愛媛県及び県内市町と協働で実施した。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	平成 26	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		目		文化振興費		R元 予算措置時期		当初
				項	目	目	目	R元	R2年度					
				H30年度		R元年度				R2年度				
現計予算額(A)(単位:千円)					38,226			43,505					56,915	
決算額(B)(単位:千円)					36,945			43,176						
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳			国支出金		4,933			11,584					3,000	
			県支出金		0			0				0		
			市債		0			0					0	
			その他		0			0						0
			一般財源		32,012			31,592					53,915	
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算								松山市文化協会補助金:17,512千円 文化創造支援事業負担金:13,168千円 愛媛国際映画祭:10,000千円					松山市文化協会補助金:18,116千円 松山市文化創造支援事業:16,940千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等														
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)		1,281			329						

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	松山市文化協会への補助金交付。 松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた松山ブンカ・ラボによる事業実施。 県との協働による愛媛国際映画祭の開催。					
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	松山ブンカ・ラボにより、松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた具体策を実施することができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	従来の取り組みに加え、松山ブンカ・ラボや愛媛国際映画祭などの新しい取り組みにより、様々な角度からの文化振興につながった。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	経済的な発展や社会の多様性が進む中で、国では平成29年、法改正を行い、文化芸術の振興にとどまらず、文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他関連各分野の施策と有機的な連携を図ることを盛り込んだ。また、新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施が必要である。					
R2年度の目標	松山ブンカ・ラボの事業により、文化芸術を様々な分野で活用する「まつやま文化人」を増やす(松山ブンカ・ラボによる事業(イベント)実施数20件を目指す。) また、松山市文化協会の事業などにより、文化芸術の振興を図る。		R2年度の主な取組み内容(予定含む)	松山ブンカ・ラボでは、「スクール」ワークショップ「アートプロジェクト」の3つを事業の柱に取り組み。 松山市文化協会では、市民文化祭(美術展・芸術祭)などの文化事業を実施する。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策 松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向け、引き続き、愛媛大学の専門性を生かして事業に取り組み、寄附講座の制度を活用する。 R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見て、拡大防止を優先し実施する。



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	松山ブンカ・ラボによる事業(イベント)実施数	件	目標値	-	-	20	20	20	目標値	20	
			実績値	-	6	24			達成年度	R4年度	
		%	達成度	-	-	120					
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた取り組みの発信力を示す指標として設定。					最終目標値の設定の考え方	5か年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画に基づく取り組みとして、イベントを開催する6月から年度末の3月までの10カ月で、1ヶ月に2回程度開催することを目標とする。			
	松山市文化協会による事業実施数	件	目標値	-	-	9	9	9	目標値	9	
			実績値	10	10	9			達成年度	R4年度	
		%	達成度	-	-	-					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)									
	本指標の設定理由	市民の誰もが気軽に文化芸術に触れ合うことのできる機会を示す指標として設定。					最終目標値の設定の考え方	5か年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画の最終年度を達成年度とする。			
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類											
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方					
成果指標 (3つまで設定可)	文化芸術情報総合サイトの年間閲覧数	PV	目標値	-	2,000	9,000	36,000	36,000	目標値	36,000	
			実績値	-	2,555	13,386			達成年度	R4年度	
		%	達成度	-	128	149					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	市民が積極的に文化芸術情報への接触を求める数を計るものとして設定。					最終目標値の設定の考え方	5か年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画の最終年度を達成年度とする。			
	松山市文化協会会員数	団体	目標値	251	251	251	251	251	目標値	251	
			実績値	221	212	196			達成年度	R4年度	
		%	達成度	88	84	78					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)									
	本指標の設定理由	文化振興の醸成度合いを測るものとして設定。					最終目標値の設定の考え方	高齢化による退会数が新規加入数を上回る現状を踏まえて、平成20年の実績値の維持を最終目標としている。5か年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画の最終年度を達成年度とする。			
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類											
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方					
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山ブンカ・ラボでは、文化芸術情報サイトの運営のほかに、シンポジウムやスクール事業、ワークショップを定期的で開催することができた。松山市文化協会の事業の実施により、市民が文化芸術に触れ合うことのできる機会につながった。									
	成果指標	文化芸術情報総合サイトは、事業の実施とともに閲覧数が伸びている。松山市文化協会では、団体構成員の高齢化により活動休止するなど退会が多くなっている。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主事	安井 李江	
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	主事	片桐 沙紀	

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】				笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む					重点プロジェクト	-		
施策	文化芸術の振興と活用					主な取り組み	-		
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援				市長公約				
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実								
総合戦略	基本目標					取組み			
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(R元)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等		松山市補助金等交付規則、松山市文化芸術振興計画							
事業の目的(どのような状態にするか)	本市の文化・スポーツを総合的に振興するため、松山市文化・スポーツ振興財団の人員費・管理運営費を補助金として支出し、財団運営の安定を図る。								
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市施設管理公社と松山市生涯学習振興財団を統合し、文化及びスポーツ等の振興を目的とする松山市文化・スポーツ振興財団が平成22年に設立されたことを機に、生涯学習振興財団に対する補助金を引き継ぎ、松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金とした。								
対象・事業内容(誰に対して,何をやるのか)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団に対し、財団の運営について補助金を支出し支援を行っている。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由						
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		社会教育総務費	R元予算措置時期	当初
				項	目	目	目			
				H30年度		R元年度		R2年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				65,867		65,466		65,053		
決算額(B)(単位:千円)				61,398		63,210				
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0		0		0		
	県支出金			0		0		0		
	市債			0		0		0		
	その他			0		0		0		
一般財源				61,398		63,210		65,053		
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金 63,210千円		松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金 65,053千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		4,469		2,256		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市文化・スポーツ振興財団に補助金を交付し、松山市の文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進した。								
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など		補助金を交付し、松山市文化・スポーツ振興財団の人員費・管理運営費として、業務が円滑に進むよう有効的に活用することができた。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進し、創造性豊かで健全な市民生活の形成と潤いと活力にあふれた地域社会の発展に貢献している。				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、市民スポーツフェスタなど予定していた事業を2月24日から全て中止した。今後、新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施が必要である。								
R2年度の目標	文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進するため、23件の事業を実施する。		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)		松山市の文化・スポーツの振興を推進する松山市文化・スポーツ振興財団の人員費及び管理運営費を補助し、魅力あるまちづくりを推進する。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組み改善策		新型コロナウイルスの感染症対策を徹底し事業を実施する。

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主事 安井 李江
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	主事 片桐 沙紀

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	文化スポーツ振興事業補助金	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金	
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-		
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-		
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約				
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実						
総合戦略	基本目標			取組み			
	政策				(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無		
	施策						
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し		重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	松山市補助金等交付規則、松山市文化芸術振興計画						
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市文化・スポーツ振興財団が実施する文化・スポーツ振興事業に対して補助金を支出し、本市の文化・スポーツの総合的な振興を図る。						
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市施設管理公社と松山市生涯学習振興財団を統合し、文化及びスポーツ等の振興を目的とする松山市文化・スポーツ振興財団が平成22年に設立されたことを機に、生涯学習振興財団に対する補助金を引き継ぎ、文化スポーツ振興事業補助金とした。						
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団に対し、財団が実施する事業について補助金を支出し支援を行っている。						
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	教室事業、講演等事業は参加費徴収あり			
始期・終期(年度)	平成	22	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費	項	社会教育費	目	社会教育総務費	R元予算措置時期	
									R元年度	R2年度
現計予算額(A) (単位:千円)				6,494			5,650		5,090	
決算額(B) (単位:千円)				4,671			1,816			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金		0		0		0		0	
	県支出金		0		0		0		0	
	市債		0		0		0		0	
	その他		0		0		0		0	
一般財源		4,671		1,816		5,090				
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算				文化スポーツ振興事業補助金 1,816千円		文化スポーツ振興事業補助金 5,090千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		1,823		3,834				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市文化・スポーツ振興財団の文化・スポーツ事業に補助金を交付し、市民に文化・スポーツに触れる機会を提供することで、文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫るスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	補助金文化事業として、新たに「小学生表現教室」として著名な演劇アーティストを招聘し、学校へのアウトリーチや公募による小学生を対象として演劇ワークショップを実施した。また松山市民会館の舞台装置を体験指導をする「バックステージツアー」を実施し好評を得た。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		事業を通して市民の文化・スポーツ活動の活性化が図られている。		
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、市民スポーツフェスタなど予定していた事業が2月24日から全て中止となった。今後、新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施が必要である。					
R2年度の目標	文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫るスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進するため、補助事業8件の実施を目指す。		R2年度の主な取組み内容(予定含む)	今年度が財団設立10周年事業となることから、「eスポーツイベント」など記念事業を実施し、これらの事業を中心に、市民の文化・スポーツ振興に貢献していく。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策
	新型コロナウイルスやその他不測の事態による事業中止等の連絡をスピーディーに実施するため、はがきを中心とした受付方法からメールを中心とした受付方法にシフトしていく。また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し事業を実施する。					

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主事	安井 李江	
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	副主幹	中川 耕児	

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	ふるさと館管理運営事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】				笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む					重点プロジェクト	-		
施策	文化芸術の振興と活用					主な取り組み	-		
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援				市長公約				
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備								
総合戦略	基本目標					取り組み			
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(R元)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等 松山市北条ふるさと館条例、松山市北条ふるさと館条例施行規則、松山市文化芸術振興計画									
事業の目的(どのような状態にするか)	北条ふるさと館は、歴史民俗資料・美術品の展示、歴史文化等各種講座を実施して、市民文化の振興を図ることを目的とした施設である。また、北条ふるさと館は、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ることを目的とした指定管理者制度により、施設の管理運営を行う。								
背景(どのような経緯で開始したか)	北条ふるさと館は、市民の文化振興を図る目的で平成7年に供用開始。松山市内、特に北条地域の文化の発信の場としても位置付けられている。								
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	北条ふるさと館の管理運営について、指定管理者制度を導入し、ふるさと北条ファンづくり応援団へ指定管理料を支出している。指定管理者による美術展示室や歴史民俗資料展示室での展示、講演会・研修会等が開催できる会議室等の提供及び市民の作品発表の場としての展示室等の貸出をはじめ、歴史文化等が学習できる講座を行っている。また、建築物等施設や機材設備の耐用年数により予測される不具合に対し、計画的に回収を行う「予防保全」と、予期せぬ故障が起こった場合改修等を行う「事後保全」により施設の維持を行っている。								
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		松山市北条ふるさと館条例、松山市北条ふるさと館条例施行規則に記載				
始期・終期(年度)	平成	7	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		目	文化振興費	R元予算措置時期	
				項	目	当初	9月補正				
				H30年度		R元年度		R2年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				37,999				41,623			45,629
決算額(B)(単位:千円)				37,680				37,308			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0				0			0
	県支出金			0				0			0
	市債			0				0			0
	その他			2,979				2,771			2,810
一般財源			34,701				34,537			42,819	
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						指定管理料:35,449千円 工事請負費:1,466千円 備品購入費:90千円		指定管理料:35,774千円 工事請負費:9,615千円 備品購入費:24千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						9月補正で3,520千円追加		予算額のうち4,200千円は前年度繰越分			
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)		319		4,315				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者による施設の維持管理費、各種歴史文化等講座や自主事業の実施。</li> <li>突発的な不具合に対応するための修繕工事の実施。</li> </ul>									
主な取り組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など		自主事業やイベント誘致など、指定管理者のネットワークを活用した事業の実施により、当初目標を上回る施設利用者の増加がみられた。					
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		本事業の実施により、市民が歴史や文化芸術に気軽に触れることができ、歴史・文化活動に参加できる機会を創出し、本市の文化振興に役立っている。						
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、3月には大会議室利用の新規受付を停止した。今後、新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施が必要である。									
R2年度の目標	指定管理者のノウハウを積極的に活用し、利用者の増加及び使用料収入の増加を図る。(目標値:13,300人) 計画的な予防保全と、突発的な事後保全による建物等施設の適正な維持管理。		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)		各種歴史文化講座や指定管理者が行う自主事業を実施する。 ・北条ふるさと館の施設維持を目的に修繕工事を実施する。		特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組み改善策		新型コロナウイルス感染症の拡大動向に留意しながら、指定管理者と連携を密に新型コロナウイルス感染症に対応した事業を実施し、安全第一での運営に努める。	

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主任	福島 卓	
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	副主幹	中川 耕児	

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	市民会館管理運営事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】				笑顔プログラム	個別プログラム	-		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む					重点プロジェクト	-		
施策	文化芸術の振興と活用					主な取り組み	-		
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援				市長公約				
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備								
総合戦略	基本目標					取り組み			
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(R元)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R元)		2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等									
事業の目的(どのような状態にするか)	松山及び北条市民会館は、本市の文化拠点であることから、適正な管理運営により、市民が文化芸術を鑑賞する場、練習・発表する場を提供することを目的とする。また、松山市民会館は、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ることを目的とした指定管理者制度により、施設の管理運営を行う。								
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市民会館は、昭和40年に供用開始。松山市中心部に位置し、本市の文化芸術活動の中核拠点としての役割を担っている。北条市民会館は、昭和55年に供用開始。主に北条地域の文化の発信や交流の場として活用されている。								
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館については、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、第4期指定管理期間(平成31年度～令和5年度)は、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団が指定管理者として施設の管理運営を行っている。</li> <li>北条市民会館については、受付等は北条支所が、その他の光熱水費、燃料費、音響照明等管理運営については、文化・ことば課が担当し管理運営を行っている。</li> </ul>								
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		松山市民会館条例、松山市民会館条例施行規則、松山市北条市民会館条例、松山市北条市民会館条例施行規則に規定				
始期・終期(年度)	昭和	40	～	令和	4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		市民会館費		R元 予算措置時期	当初
				項	目	目	目				
				H30年度		R元年度		R2年度			
現計予算額(A) (単位:千円)				203,833		210,460		213,573			
決算額(B) (単位:千円)				190,635		189,832					
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0		0		0			
	県支出金			0		0		0			
	市債			0		0		0			
	その他			95,231		109,389		98,423			
一般財源			95,404		80,443		115,150				
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館指定管理料 177,517千円</li> <li>北条市民会館施設点検等委託料 4,144千円</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館指定管理料 195,230千円</li> <li>北条市民会館施設点検等委託料 4,445千円</li> </ul>			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		13,198		20,628			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館については、指定管理者制度により管理運営を行った。</li> <li>北条市民会館については、北条支所が窓口等業務を、文化・ことば課がその他の管理運営を行った。</li> </ul>												
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			松山市民会館では、指定管理者の自主事業として、ゴスペル教室、ペン習字教室など施設の活性化を推進する事業を継続して実施し、単に指定管理にとどまるだけでなく、施設の積極的な活用を行っていることが評価できる。						
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		本事業の実施により、市民が文化芸術に触れ、参加できる機会を創出することにより、本市の文化振興に役立っている。								
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない					
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、3月に大ホール、中ホールなどの外気がとりこめない貸室は新規受付が停止となった。												
R2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館については、指定管理者による施設の適正な管理運営と自主事業による利用者の増加。</li> <li>北条市民会館については、適正な管理運営と利用者の増加。</li> </ul>			R2年度の主な取り組み内容(予定含む)			<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市民会館については、指定管理者制度による適正な管理運営を行う。</li> <li>北条市民会館については、北条支所が窓口等業務を行い、文化・ことば課がその他の管理運営を行う。</li> </ul>			特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策		新型コロナウイルス感染症対策として、開館時には換気、除菌などを入念に行う。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	松山市民会館利用者数	人	目標値	319,000	362,700	366,000	369,200	372,400	目標値	375,700	
			実績値	325,862	315,051	374,044			達成年度	R4年度	
		%	達成度	102	87	102					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	施設利用の活動状況を示す指標					最終目標値の設定の考え方	平成30年度から、松山市総合計画後期基本計画「市文化施設の利用者数」(対象施設:松山市民会館、北条市民会館、北条ふるさと館、キャメリアホール)の「目標値(令和4年度)」を基に、各施設の目標値を設定。			
	北条市民会館利用者数	人	目標値	23,700	21,700	21,900	22,100	22,300	目標値	22,400	
			実績値	17,892	18,676	16,582			達成年度	R4年度	
		%	達成度	75	86	76					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	施設利用の活動状況を示す指標					最終目標値の設定の考え方	平成30年度から、松山市総合計画後期基本計画「市文化施設の利用者数」(対象施設:松山市民会館、北条市民会館、北条ふるさと館、キャメリアホール)の「目標値(令和4年度)」を基に、各施設の目標値を設定。			
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類											
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方					
成果指標 (3つまで設定可)	松山市民会館年間使用料収入	千円	目標値	92,000	92,000	92,125	92,875	93,625	目標値	95,125	
			実績値	91,350	89,464	102,605			達成年度	R5年度	
		%	達成度	99	97	111					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	利用状況の成果を示す指標					最終目標値の設定の考え方	松山市民会館の第4期指定管理期間(令和元年度～令和5年度)の最終年度を達成年度とする。目標値は、館全体で年度上昇率を約1%と見込み、令和元年度から年間上昇額を毎年750千円と算出して設定。			
	北条市民会館年間使用料収入	千円	目標値	3,200	3,100	2,900	2,950	3,000	目標値	3,100	
			実績値	2,838	2,668	2,483			達成年度	R5年度	
		%	達成度	89	86	86					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標									
	本指標の設定理由	利用状況の成果を示す指標					最終目標値の設定の考え方	松山市民会館の達成年度と同一とし、松山市民会館の第4期指定管理期間の最終年度を達成年度とする。目標値は、館全体で年度上昇率を約1%と見込み、令和元年度から年間上昇額を毎年50千円と算出して設定。			
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
	%	達成度									
指標の種類											
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方					
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山市民会館の利用者数は、集客が見込める大規模催事の開催数により上下するが、指定管理者の利用者数増加へ向けての働きかけにより、一定の評価ができる。北条市民会館の利用者数も、リピーター確保の働きかけ等により例年と同様2万人弱で推移しており、一定の評価ができる。									
	成果指標	松山市民会館は愛媛県民文化会館が改修工事で閉館していることもあり、R1年度は目標を達成した。北条市民会館は目標達成していない状況である。今後さらに、使用料収入の増加へむけ、新規利用者の獲得など利用者数の増加に努めなければならぬ。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和2年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	令和2年度	評価対象年度	令和元年度
--------	-------	--------	-------

令和2年度	部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部長名	吉田 健二	課等長名	石橋 美幸	リーダー名	副主幹	担当者名	主任 福島 卓
令和元年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	副主幹 中川 耕児

1. 事業概要【Plan】 ※令和元年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	市民会館改修事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-	
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-	
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約			
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備					
総合戦略	基本目標	-	取組み	-		(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策	-		-		
	施策	-		-		
総合計画の実施計画掲載有無(R元)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R元)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	松山市民会館条例、松山市民会館条例施行規則、松山市北条市民会館条例、松山市北条市民会館条例施行規則、松山市文化芸術振興計画					
事業の目的(どのような状態にするか)	市民に松山市民会館と北条市民会館を快適に利用していただくため、計画的な「予防保全」、故障・不具合が生じた場合の「事後保全」により、施設を適正に維持するための改修を行う。					
背景(どのような経緯で開始したか)	文化活動の拠点として、松山市民会館は、昭和40年に供用開始。北条市民会館は、昭和55年に供用開始。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	松山市民会館及び北条市民会館の建築物等施設や機材等設備の耐用年数や兆候などあらかじめ予測される不具合に対し、計画的に改修を行う「予防保全」と、突発の故障・不具合について改修を行う「事後保全」により、施設の維持保全を行っている。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	昭和 40	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		市民会館費		R元予算措置時期	当初
				項	目	目	目				
				H30年度		R元年度		R2年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				14,589		13,635		10,575			
決算額(B)(単位:千円)				13,535		7,960		-			
内訳(単位:千円) ※H30→R元 決算内訳, R2→予算内訳	国支出金			0		0		0		0	
	県支出金			0		0		0		0	
	市債			0		0		0		0	
	その他			0		0		0		0	
一般財源			13,535		7,960		10,575				
主な経費(単位:千円) ※R元→決算,R2→予算						工事請負費:7,960千円		工事請負費:10,575千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		1,054		5,675			

\*決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R元年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市民会館は、雨漏対策をはじめ各種修繕工事を主に行った。 北条市民会館は、トイレ洋式化改修工事の他、事後保全のための突発的な修繕工事を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	当初予定の工事は、目標通り達成できた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		本事業の実施により、施設の適正な維持が図られ、市民が文化活動の拠点である市民会館を快適に利用できる環境づくりができていたため。		
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R元年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	老朽化施設であるため、施設の維持保全を図るため、計画的に予防保全を図る必要がある。					
R2年度の目標	経年劣化等により故障・不具合について改修を行う「事後保全」と、あらかじめ予測される不具合に対し、計画的に改修を行う「予防保全」を行うにより、施設の維持保全を行う。R2年度は改修工事6件を実施予定。		R2年度の主な取り組み内容(予定含む)	予防保全及び事後保全として、松山市民会館、北条市民会館の設備改修工事を行う。 ○主な工事 松山市民会館 ・大ホール舞台設備修繕工事 北条市民会館 ・トイレ洋式化工事	特に環境変化,障害,課題等解決のため,R2年度で取り組む改善策	松山市民会館は、築55年を迎える老朽化施設であるため、施設の維持保全を図るため、計画的に予防保全を図る必要がある。